留学報告書

成長させてくれた台湾

中国文化大学
国際文化学部（中期）

1. はじめに

私は台湾の中国文化大学で中期留学を経験して、自分自身の成長を感じ、より一層、異文化理解が出来たと思いました。私にとって海外は旅行も含めて初めての経験でした。台湾に到着した際は不安でいっぱいでしたが、同じ飛行機に乗っていた台湾人のおばあさんに助けてもらい、台湾は優しい人が多い国という認識は正しかったと思いました。大学で仲良くなった台湾人の友達もお節介と言ってもいいほど優しく、台湾での生活に対しての不安はすぐに払拭できました。

２.言語の違い

台湾での生活で一番苦労したことは現地の中国語が名古屋学院大学で学んだ中国語と異なることでした。学校で学んだ中国語は「簡体字」と呼ばれるもので、基本的には中国大陸で使用されています。台湾で使用する中国語は「繁体字」でした。「簡体字」と「繁体字」の違いは字形の違いです。「簡体字」の特徴は画数が少なく、シンプルで覚えやすいことです。一方、「繁体字」の特徴は画数が多く、伝統的な漢字の形をしており、「簡体字」のもとになっている字です。「繁体字」は日本の旧字体の漢字に似ており、見た目だけで理解することができます。台湾では、中国大陸の中国語を「汉语」あるいは「中文」と呼び、台湾で使用する中国語は「台湾華語」と呼びます。「汉语」と「台湾華語」と呼び方が異なるので、台湾から見たら、全く違う国の言語だと感じました。

「簡体字」と「繁体字」がどの程度異なるのか。

日本語	簡体字	繁体字
まだ	还	環
これ	这个	這個
ありがとう	谢谢	謝謝
愛知	爱知	愛知

このように、「繁体字」のほうが日本の漢字に似ており、書く分には簡単でしたが、台湾の中国語の教科書は全て「繁体字」で、「簡体字」で学習していた私にとって読解するのに苦労しました。まだ字体が異なるだけなら良いですが、台湾と中国大陸で同じ意味でも呼び方が異なることがさらに台湾での生活を難しくしました。

日本語	簡体字	繁体字
タクシー	出租**车**	計程車
トマト	西红柿	番茄
弁当	盒饭	便當
バイク	摩托車	機車

このように意味は同じでも読み方が異なるものがあり、台湾華語になれるには時間が掛かりました。その他にも、同じ字体・意味でも発音が異なるものもあります。「和」という言葉は、中国大陸一般的に「hé」と発音しますが、台湾では「hàn」と発音されることもあります。同じ漢字でも発音や表現が異なるものが多くあります。中国語の発音を表す方法にはピンインがあり、アルファベットを使用して声調を示します。台湾では主に注音が使用されており、専用の記号で中国語の発音を表す方式です。私の名前は一目見て、全く理解できませんでした。

3. 中国文化大学でのイベント

台湾での生活を通して、文化や価値観の違いを日常の中で実感する機会が多くありました。中国文化大学では寮生活をしていました。一人部屋に 4 人の交換留学生と共同生活で、プライバシーの確保が難しいと感じる部分が多くありましたが、その分、ルームメイトと協調しながら生活する姿勢が自然と身に付きました。ルームメイトは私を含めた日本人 3 人とスペイン人のジョルディでした。ジョルディとは英語での会話だったため、英語の勉強にもなりました。留学生には様々な国籍の人がおり、英語の上達に繋がったと思いました。

中国文化大学では様々なイベントがありました。ハロウィンイベントやクリスマスツリー点灯式、クリスマスパーティーなどがありました。ハロウィンイベントでは、お菓子やドリンクをもらいました。クリスマスツリー点灯式では、iPhone17pro や Switch２などの豪華な景品が当たる抽選がありましたが、残念ながら私は何も当たりませんでした。クリスマスパーティーは留学生向けに開催されて、料理が振る舞われたり、プレゼント交換などがありました。







中国文化大学には日本語学科があります。日本語学科で開催される日本人留学生向けのイベントが２つありました。1 つは、学伴です。学伴とは、台湾人と日本人でグループを作り一緒に勉強し、それを通して日本人は台湾人に日本の文化や実際の日本事情を教え、台湾人は日本人に台湾のことを教える活動です。さらにこの活動は、お互いの交流を通して友好関係を結べる目的があります。活動内容はグループによって異なりますが、私のグループはよく一緒に食事をしました。他にも、日本式のカラオケやキャッチボールなどの活動をしました。

２つ目は日本語コーナーです。日本語コーナーは日本人留学生がイベントを開催し、日本の食事と文化を授業の形式で台湾の学生に教えるものです。日本語のみで UNO などのカードゲームを

行ったり、日本料理を作って試食会を開いたりしました。さらに、愛知県代表として、スライドを使用し愛知県の魅力を紹介しました。台湾人と日本人が一番興味を持った観光地は香嵐渓でした。予算の関係で、日本料理は練り切りと豚汁の二つしか作れませんでしたが、台湾の学生にとって初めての体験で大変喜んで頂けました。中国文化大学での生活は毎月何かイベントがあり、退屈することが少なかったです。

4. 言語の壁

留学するにあたって理解はしていましたが、一番大きな問題は言語の壁でした。留学当初は、繁体字にも慣れておらず、授業内容を理解するのに苦労しました。また、先生が話す中国語の速度も速く、聞き取れないことが多くありました。さらに、グループワークやグループ発表などある授業もありました。そのグループワークでは日本人同士になることが少なく、日本人がいても、他の国籍の学生もいるのでコミュニケーションツールとして、中国語や英語を使って意見交換を行う必要があり、円滑にコミュニケーションを取る事が大変難しかったです。自分を含めて皆が皆、英語や中国語を上手に話せるわけではなかったので苦労しました。ですが、日本語が使えない環境に身を置いたことで、分からないままにせず積極的に聞き返す姿勢や、わからない単語をすぐ調べる、状況に応じて言語を使い分ける力が身についたと感じました。

現地でとても頼りになったのが、日本語学科の学生のレイさんという方です。彼は数か月後に日本の大学に留学することが決まっており、日本語学科で一番日本語が上手でした。彼と遊ぶ際は、「これはどうやって発音するの？」、「これはどういう意味？」、「これを言いたいときなんて言えばいいの？」など質問して学習しました。

ここで得た経験は、日本語が通じないから怯えて縮こまるのではなく、胸を張っていろんな人に話しかけることです。実際、自分の英語は完璧ではないし、文法もめちゃくちゃです。それでも、恐れず話しかけたことでスペイン人、フランス人、韓国人等々様々な国籍の人と仲良くなることができました。そこで得た知識は日本人からは得られないものばかりでしたし、異文化理解に繋がりました。

5. 今後について

せっかく日本を離れ、台湾で中国語や英語を学ぶ機会を得たので、将来は語学力を生かせる職業に就きたいと思いました。その為にはまずアルバイトで実践を積み、力を付けたいと考えています。幸いにも、私のアルバイト先はビジネスホテルのフロントと名古屋名物「ひつまぶし」のお店なので、語学力を生かせる機会が多く、これからも頑張りたいと思います。自分の目で見て、肌で感じた台湾での経験は一生ものの財産だと感じました。